

海のまち・上関町に住む私たちにとって、灯台はとても身近な存在で、多くの方が日常的に灯台を目にし、ふるさとの風景の中に自然に溶け込んでいます。上関町をPRする写真にも欠かせない存在です。

船舶の安全な航行に欠かせない灯台ですが、ひとこと「灯台」と言っても、その種類や役割にはさまざまなものがあります。今回は、意外と知られていない灯台のいくつかの豆知識と、上関町内に立っている灯台を紹介します。



◎灯台の種類

船舶が海上での位置を知るための道しるべとなる設備を「航路標識」と呼んでいます。航路標識には、岬や防波堤などに立つ灯台や、海に浮かぶ灯浮標など、灯光を手段とする「光波標識」、霧信号所など音を手段とする「音波標識」、電波を手段とする「電波標識」などがあります。

一般的には、灯台には「沿岸灯台」と「防波堤灯台」の二つがありますが、「こじでは、海に浮かぶ灯浮標や導灯など、光を手段とする光波標識も灯台の仲間として紹介し

ます。《沿岸灯台》 灯台の中で、船舶が陸地や主要変針点又は自船の位置を確認する際の目標とするために、岬や沿岸の顕著な場所に設置されているものを「沿岸灯台」と呼びます。

上関海峡の室津灯台や、八島(平根崎)、鼻線島、天田島、ホウジロ島などに立っている灯台が沿岸灯台です。

《防波堤灯台》 港湾の所在や港の出入口などを示すために港湾や漁港の防波堤の先端に設置されている灯台を「防波堤灯台」と呼びます。港の奥に向かって左側は白色、右側は赤色に塗装されています。沿岸灯台に比べると、光が遠くまで届く必要がないので小型なものになります。

室津・上関・白井田・八島などの漁港の防波堤に立っている灯台が防波堤灯台になります。

《導灯》 航路標識の中で、通航困難な水路、狭い港口などの航路を示すために、航路の延長線上の陸地に設置した2基を一对とする構造物で、灯光を発するものをいいます。船舶が航行する見通し線上にあたる陸上に、低い塔(前灯)と高い塔(後灯)が一对になって立っているもので、船舶はこれら一对の塔の光が上下に並んで見えるように進めば、安全な航路上に導かれるようになっていきます。

上関の森の中に立っている矢印のような形の構造物が導灯で、上関海峡を安全に通航するためのものです。

《灯標》 波のあいだに見えかくれる岩とか、浅い所に船が乗り上げないように、暗礁や、浅瀬などの上に立っているのが灯標です。

《灯浮標》 船に暗礁や、浅瀬のある所を示したり、決められた安全なコース(航路)に導くため、海に浮かべられた標識です。水面に浮かんでいる標体と海底に置いた重りとをチェーンでつないでいます。

祝島の烏帽子の岩場の沖や、祝島の南側の海上に浮かんでいるのが灯浮標です。

◎灯台の光り方

灯台、灯標、灯浮標などの航路標識は、夜になると光を出すので、「夜標」といいますが、夜標は、他の標識と間違えられないように、また、船や町の灯りとはっきり区別できるような光を出しています。

これを「灯質」といって、光の色と光の出しかたの組合わせでできています。そして、付近の夜標とは違う光り方をしています。なぜなら、隣同士の灯台が同じような光り方をしてしまうと、船は間違えて浅瀬や海岸に乗り上げる心配があるからです。灯質には、たくさん種類がありますが、ここでは、主なものだけ表にしました。光の色は白、赤、緑の3種類で、黄色のものも、わずかにあります。

光りかた	説明
☆ 不動光 	光がついたままで、ついたり、消えたりしないものです。
☆ 単明暗光 	きまった秒数だけ光って、また何秒かをおいて、くり返す光るものです。
☆ 単閃光 	きまった間隔をおいて、ピカッと1回光るものです。
☆ 群閃光 	きまった間隔をおいて、ピカッ、ピカッと2回以上、光るものです。
☆ 連成不動単閃光 	単閃光と、光力の弱い不動光を組合わせたものです。
☆ 不動互光 	ちがった色の光、たとえば赤と白の光を、たがいちがい出して、暗くなる間もないものです。
☆ 閃互光 	ちがった色の単閃光を、たがいちがいに出すものです。

◎上関町内の灯台

上関町内に立っている主な灯台や導灯、灯浮標などを紹介しましょう。



室津灯台(塗色:白)
初点灯:昭和11年6月
灯質: IsoWR6s
(等明暗白赤光 明3秒暗3秒)
光達距離:12海里



上関港A防波堤灯台(塗色:赤)
初点灯:昭和39年12月



白井田港防波堤灯台(塗色:赤)
初点灯:昭和51年11月



八島港防波堤灯台(塗色:赤)
初点灯:昭和46年9月



上関導灯(前灯)



鼻線島灯台(塗色:白)
灯質:FIW5s
(単閃白光 毎5秒に1閃光)



えぼし灯浮標(祝島)

◎灯台絵画コンテスト

全国の小中学生を対象に、毎年、灯台をテーマにした絵画コンテストが開催されています。金賞および海上保安庁長官賞の受賞者は、11月1日の灯台記念日に東京で開催される灯台記念日祝賀会に併せて実施される授賞式に招待されるそうです。

灯台のある風景の中で暮らしている上関町の子どもたちに、ぜひチャレンジして欲しいコンテストです。締め切りは9月5日。詳細は、以下のWebサイトを閲覧ください。
<http://www.tokokai.org/contest/>

◎「わいわいタイムス」7月号は7月3日(日)発行予定です。